

■活動の名称 鍛冶式ウォークブルプロジェクト2

1:基本情報

① 主催者

鍛冶町二丁目ウォークブルプロジェクト企画実行委員会

②実施場所(エリア)

神田駅東口大通りの一部

・区間①:千代田区鍛冶町2丁目7-1から鍛冶町2丁目 7-15まで

・区間②:千代田区鍛冶町2丁目8-1から鍛冶町2丁目-8-14まで

③企画から実施までの活動の流れ(活動に必要な申請書関係含む)

【企画検討】

5月9日～5月26日:公募提案に向けた企画検討

7月1日～7月30日:採択後の企画検討

【準備】

7月4日:千代田区景観・都市計画課との第1回打ち合わせ【打合せ内容:採択報告と実施内容の調整】

7月23日:千代田区景観・都市計画課との第2回打ち合わせ【打合せ内容:実施内容の調整結果報告】

8月13日:警察署との第1回打ち合わせ【打合せ内容:企画(案)の説明】

8月29日:警察署との第2回打ち合わせ【打合せ内容:前回指摘事項を踏まえた再考事項の説明】

9月16日:道路占用許可申請書提出

9月22日:道路使用許可申請書提出

8月25日～9月19日:広報の作成

9月1日～10月10日:備品発注

9月19日:広報の開始

10月10日:保健所へ行事における臨時出店届を提出

【活動実施】

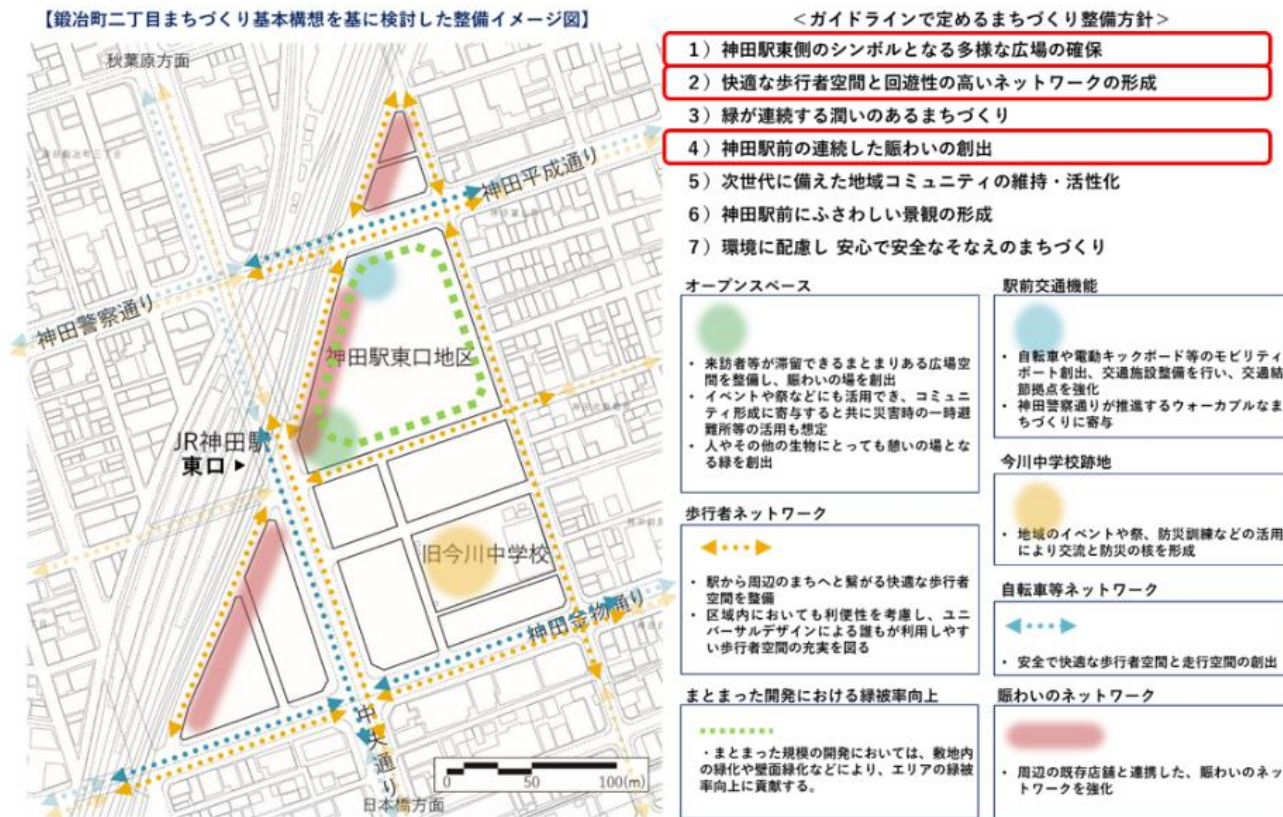
10月16日,17日:活動実施

		2025年度									
		～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会議	検討事項・他	5/21 グルメフェス調査 キックオフ		7/3 検討会議①	9/4 検討会議②	9/30 検討会議③	10/16,17 実証実験		12/1 成果報告		
	作戦会議	5/15	6/12,26	7/17	8/21	9/25	11月上旬				
検討事項・他		調査・実施内容検討		道路警察協議		広報・挨拶回り・発注等		成果検証			

7/22～:区との調整
7/28～:簡易図面UP
8/4～:警察1stアタック
8/18～:本図面+設置物リストUP→警察2ndアタック
8/25～:広報素材作成・造作物設計
9/1～:広報開始目標(メインビジュ確定・SNS開設等)・造作開始
9/8～:道路使用許可取得

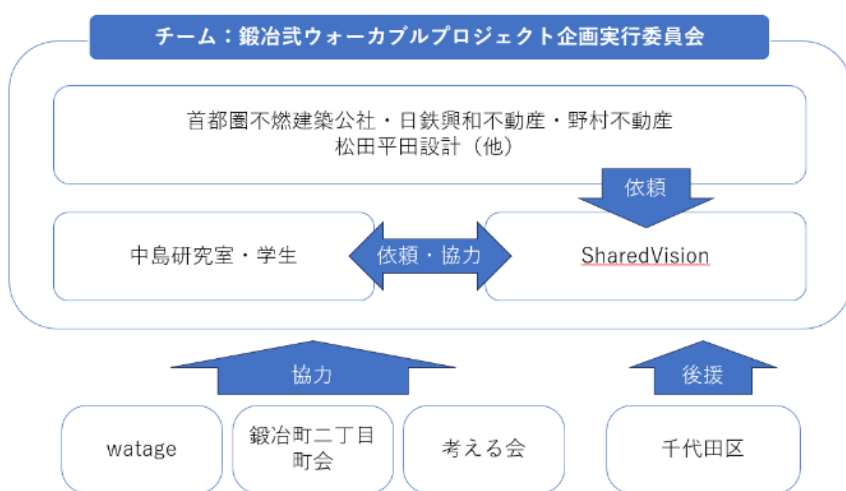
④活動の内容

鍛冶町二丁目まちづくりを考える会では、「鍛冶町二丁目まちづくりガイドライン(以下、ガイドライン)」を検討してきた。鍛冶町二丁目でのウォーカブルなまちづくりを推進するため、2022年に初めて実施した鍛冶式ウォーカブルプロジェクトシリーズの第二弾「鍛冶式ウォーカブルプロジェクト2」として企画した。対象地は、ガイドラインにおいて「歩行者ネットワーク」に位置付けられ、将来的に整備が予定されている「オープンスペース」にも隣接する神田駅東口大通りとし、滞在空間の創出やコミュニティ拠点を軸とした地域との連携を検証する実験を行った。



《プロジェクトチーム》

「鍛冶式ウォーカブルプロジェクト企画実行委員会(以下、実行委員会)」を立ち上げて企画・実行した。実行委員長には、東京都市大学都市空間生成研究室の中島伸准教授を迎え、プロジェクトの企画・実行にあたっては研究室の学生も参加した。実行委員会には、日鉄興和不動産株式会社、野村不動産株式会社・一般財団法人首都圏不燃建築公社・株式会社松田平田設計・SharedVision が参画した。鍛冶町二丁目町会・鍛冶町二丁目まちづくりを考える会・地域内のコミュニティ拠点である watage には協力、千代田区には後援を頂いた。



東京都市大学都市空間生成研究室
中島 伸准教授

《プロジェクトの狙い》

今年度のウォーカブルプロジェクトでは下記の7項目を狙いとして実施した。

- ① 神田らしい賑わいの創出
- ② 特にオフィスワーカーに向けた滞留空間の創出
- ③ ストリートファニチャー設置による心地よい滞留空間の検証
- ④ 朝昼夕の過ごし方の検証(夜のまち以外の滞在目的を検証)
- ⑤ コミュニティ拠点を軸とした地域との連携によるウォーカブルなまちづくりの推進
- ⑥ 学生と連携したウォーカブルまちづくりの検討
- ⑦ 活動を通じたコミュニティの拡大

《プロジェクトの実施場所》

本プロジェクトの実施場所は、神田駅東口大通り上の時間制限駐車区域(以下、路上パーキング)を含む区域を2か所とした。日常的に車が停車している空間を使用することにより、通行者への弊害なく、人の通行や滞在のための空間として整備する実証実験をできると考えた。

① PJ2の狙い

- ・ 歩きやすい歩行者空間への再編
- ・ 信号待ちなどの滞留を受け入れる空間の創出
- ・ 学生のウォーカブルまちづくりへの介入促進

② 実施場所

- ・ WAW, watage前の時間制限駐車区域
- ・ 必要に応じてその前後の道路空間

③ 実施内容

- ・ パーキングメーターを止め時間制限駐車区域を活用
- ・ 地域コミュニティ拠点の備品活用や空間的連携
- ・ オリジナルファニチャーを用いた滞留空間づくり
- ・ 空間づくりにおける緑の導入
- ・ 朝昼晩で違ったコンテンツ提供

④ 実施日程

10月16日(木)、17日(金) **8:00~18:00**



《プロジェクトでの空間検証》

今回実施する空間にどのような場所が求められているのかを探るため、本プロジェクトにおいては、独自開発のストリートファニチャーによりサクッと過ごせる場所を提供し検証を行った。

《プロジェクトで使ったアイテム》

空間づくりにおけるアイテムとして、下記の特徴を持った六角形をモチーフに六角形のファニチャーを開発。ドラムクッションカバー・椅子は、プログラムに合わせて可変できるよう工夫した。

空間づくりにおける緑の導入にあたっては、神田を中心に藍を育てるコミュニティを運営している「神田藍の会」に協力を仰ぎ、近隣に本店を構える興産信用金庫で育てている藍をレンタルするなどの連携も生まれた。

可動式六角形ファニチャー

神田藍の会とのコラボ

《六角形ファニチャーの特徴》

- **多方向から合流できる形**
前後左右からアクセス可能、通りがかりの人もグループが別々の方向から来てもスムーズに合流ができる。
- **交流を自然に促す**
円形よりも隣接感がほどよく、四角形より閉塞感が少ない
- **柔軟なレイアウトが可能**
人数や場面に合わせて自由に形を変えられる

漢字「六」の成り立ちについて

- 屋根の形を表した象形文字
- 上の部分が三角形（とがった屋根）、下の部分が開いていて、中に物が収まるような形
- これは「集める」「まとめる」という意味がある

《藍を植えたポットを設置》

「神田藍の会」とのコラボにより、空間における緑は、藍を植えたポットを設置する。24日のプロジェクト最終日には、ポットを販売し、藍の会のコミュニティ拡大に協力する。



《朝・昼・夕で異なるプログラムを提供》

在勤者の多い当地域において、朝・昼・夕では過ごし方のニーズが異なるのではないかと考え、時間ごとに異なるプログラムを提供した。

朝：8:00～10:00 鍛冶式の朝ごはん
具なしの味噌汁を配り、具材事にスタンドを用意。

昼：12:00～14:00 サクッとランチスペース
カウンターの高さで六角形テーブルを設置
周辺の飲食店からテイクアウトしたランチをサクッと食べてもらうスペースを用意

夕：16:00～18:00 寄り道くつろぎスペース（仮）
六角形ファニチャーを置き、仕事帰りの時間を自由に過ごせるスペースを用意

この場、あなたのヨロコブ
サクッと過ごそう。

鍛冶式でサクッと朝食
8:00～10:00

鍛冶式
ウォークアプル
プロジェクト

この場、あなたのヨロコブ
サクッと過ごそう。

サクッとランチスペース
12:00～14:00

鍛冶式
ウォークアプル
プロジェクト

この場、あなたのヨロコブ
サクッと過ごそう。

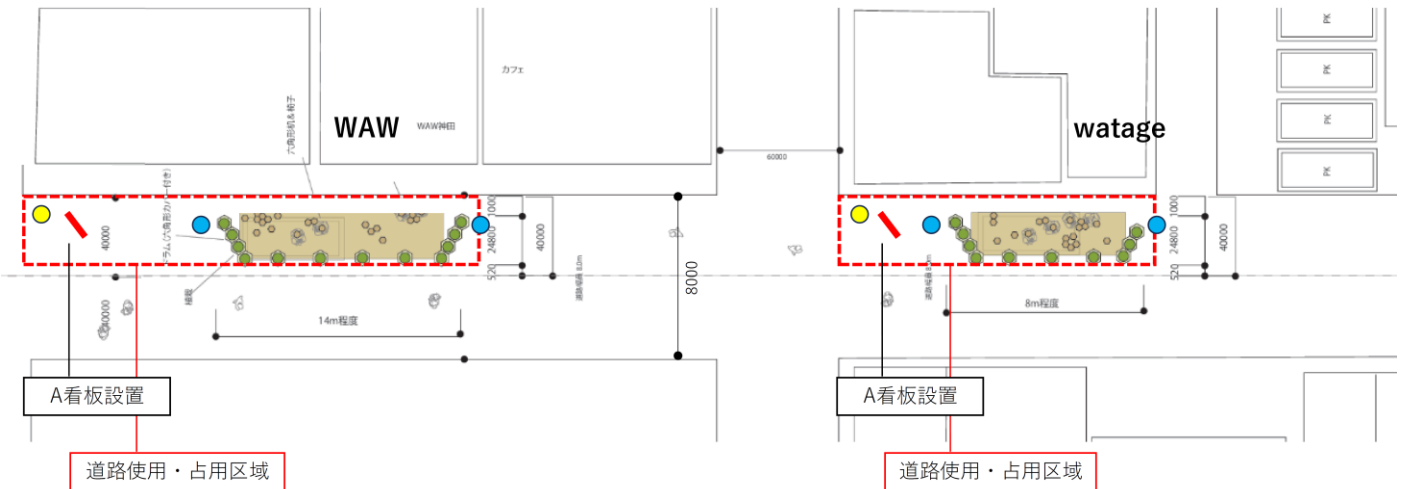
寄り道くつろぎスペース
16:00～18:00

鍛冶式
ウォークアプル
プロジェクト

《空間デザイン》

神田駅東口大通り上の路上パーキングを含む2か所の実施場所を区域①、区域②とし、下図の通り空間をデザインした。

配置図



ドラムクッション+カバー



警備員

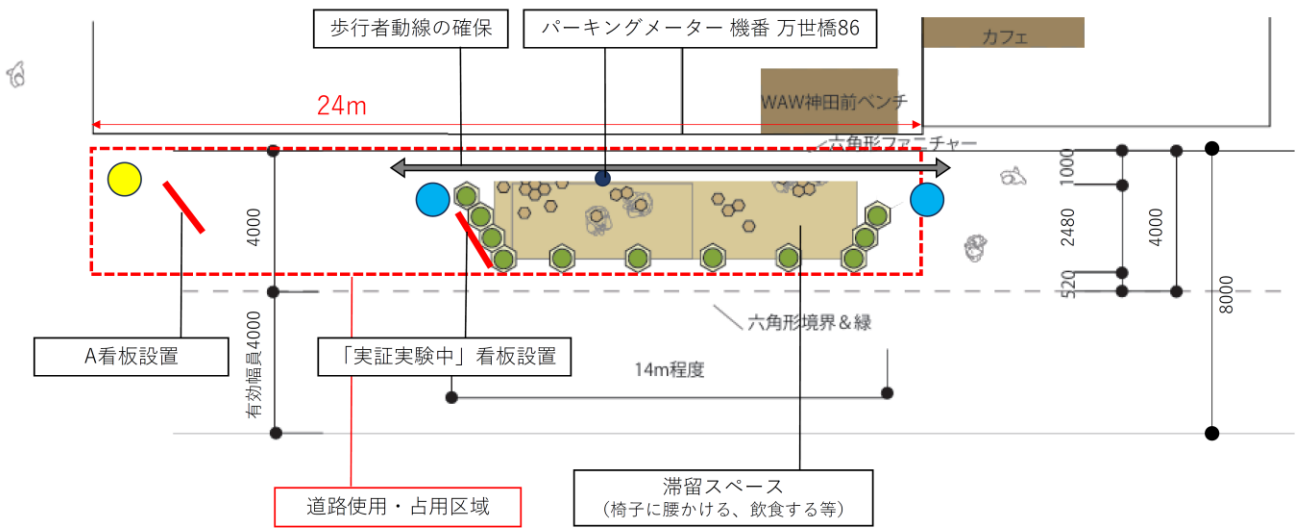


誘導スタッフ

※車いす等がすれ違う時には1名ずつ通行するよう誘導する。

詳細平面図：WAW前

※緊急車両通行時は、通行に支障のないように占有物を移動します。



ドラムクッション+カバー 11個



警備員



六角形ファニチャー 21個

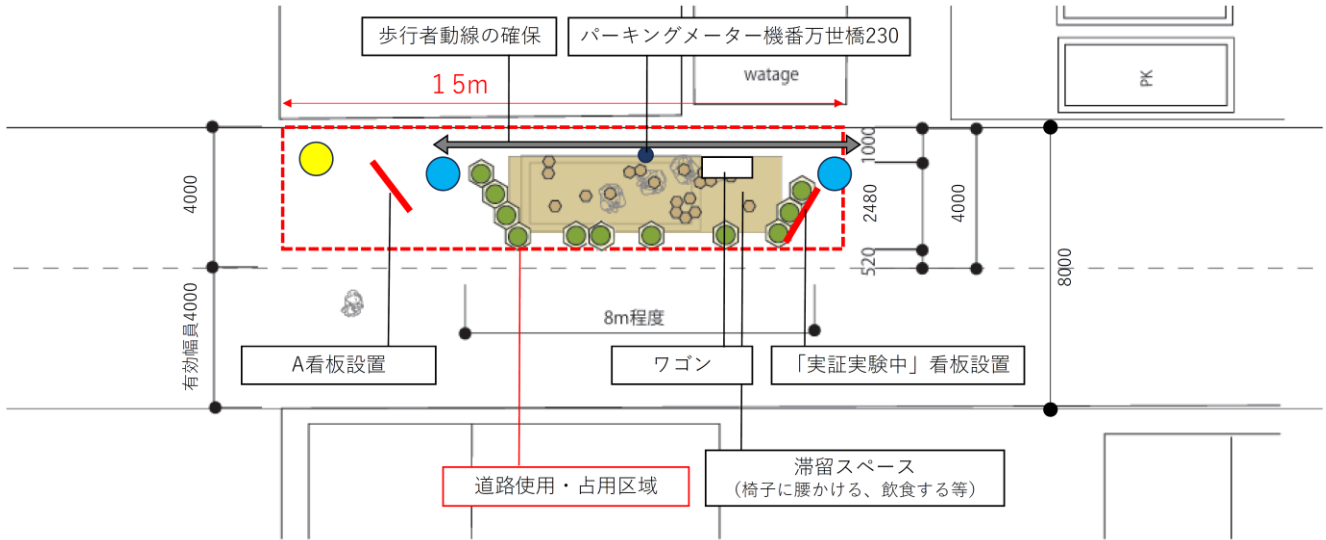


誘導スタッフ

※車いす等がすれ違う時には1名ずつ通行するよう誘導する。

詳細平面図：watage前

※緊急車両通行時は、通行に支障のないように占有物を移動します。



ドラムクッション+カバー 11個



警備員



六角形ファニチャー 21個



誘導スタッフ

※車いす等がすれ違う時には1名ずつ通行するよう誘導する。

《プロジェクトの実施結果》

日常的には車が停車している路上パーキングに滞在空間を実験的に整備し、朝・昼・夕と近隣で働く人や在住者の利用風景を創出することができた。各時間帯の利用状況は下記の通り。

- ・ 朝は、出勤を急ぐ人が多くなかなか足を止めてくれない状況もあったが、比較的遅めの時間に出勤するオフィスワーカーとは味噌汁を手にアンケートに回答するなど会話が生まれた。このような場があることを朝に知り、昼の時間に再度訪れるという人もいた。
- ・ 昼は、昼休憩で外に出て来たオフィスワーカーがお弁当を食べたり、お昼を食べた帰り道でコーヒーを飲みながら滞在したりするシーンが生まれた。在住者の来訪も複数あり、地域での会話が生まれるきっかけとなった。
- ・ 夕は、特に帰宅途中にアンケートに回答してくれるなど、比較的ゆっくりと時間を過ごす様子が見られた。

また、watage を軸に、神田藍の会などを始め、地域の様々な団体や事業者と連携して企画を実施した。

○写真上段:実施場所における実施前と実施中の比較

写真下段:朝・昼・夕で異なるテーマの滞在空間を提供している様子



○当日の様子



2:活動の実施の仕方

①活動の実施体制

【主催】

・鍛冶式ウォーカブルプロジェクト企画実行委員会:活動の企画・準備・実施

実行委員会には、東京都市大学、日鉄興和不動産株式会社・野村不動産株式会社・一般財団法人首都圏不燃建築公社、株式会社松田平田設計、SharedVision が参画し、実行委員長は東京都市大学都市空間生成研究室の中島伸准教授が務めた。

【後援】

・千代田区

【協力】

・鍛冶町二丁目町会:広報の協力

・鍛冶町二丁目まちづくりを考える会:広報の協力

・東京都市大学都市空間生成研究室

・watage:打合せ場所の提供・プロジェクト実施日の本部・スタッフ控室の提供

② 活動の収支状況

【収入合計:120万円】

・千代田区活動支援金:30万円

・鍛冶町二丁目ウォーカブルプロジェクト企画実行委員会負担金:90万円

【支出合計:120万円】

・備品等のレンタル・購入費:60万円

・警備員・広報資料等発注費:60万円

③ 広報活動の内容

・区広報紙への掲載

・近隣町会・商店街組合員へのチラシ配布

・千代田区 HP での周知

・千代田区 Facebook での周知

・鍛冶式ウォーカブルプロジェクト特設ページでの周知 <https://lit.link/kaji2>

The screenshot shows the Lit.Link website interface. At the top, there is a navigation bar with icons for home, preview, share, and notifications. The main content area features the Lit.Link logo and a central announcement for the '鍛冶式ウォーカブルプロジェクト' (Kaji Project). The text states that the project is scheduled for October 16, 17, 23, and 24. Below this, there are social media icons for Instagram and Facebook. At the bottom, there is a colorful graphic with the text 'ゆったり' (relaxing) and 'ウォーカブルプロジェクト' (Walkable Project).

・鍛冶式ウォーカブルプロジェクト Facebook での周知

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61581147650750>



・鍛冶式ウォーカブルプロジェクト Instagram での周知

<https://www.instagram.com/kaji2.walkable/>



3:今後の活動の展望

①今回の活動を通じて実現した「地域課題の解決」、「新たな価値の創造」

- ・ 日常的には車が停車している路上パーキングに滞在空間を実験的に整備し、朝・昼・夕と近隣で働く人や在住者の利用風景を創出することができた。特に、オフィス以外に近隣で時間を過ごせる場所が少ないという声が多く、本プロジェクトを通して滞在空間の創出を試みた意義を感じた。
- ・ 企画実施においては、近隣からのご協力もいただき、また道路空間の在り方について地域の在勤・在住者が考えるきっかけとなったため、多様な地域の方々・団体と連携した取組となった。当地域では、ウォーカブルプロジェクト実施後も別のテーマにてまちづくり活動を継続しており、その過程において、ウォーカブルプロジェクトの認知度が上がっていることを実感できた。

②活動を進める上での課題や苦勞したこと

- ・ 本実験の実施に限らず、日ごろから車道を通行する習慣のある人々を、あえて正しい歩道側を歩行するよう誘導することには苦勞し、今後への課題が残った。なお、日常的に車道を通る理由としては、歩道の狭さや、歩道に沿って路上駐車が日常的にあることが原因と考えられる。
- ・ 飲食の提供には(無料でも)臨時営業届が必要で、そのためには町会か行政の「後援」が必要とのルールがあることを直前で知り、対応に苦勞した。

③:①や②を踏まえた今後の活動に向けた方針

- ・ 朝・昼・夕と様々に地域の在勤・在住者が滞在するシーンは創出できたが、空間への入りやすさや居心地の良さについては課題が残り、当初想定していた「サクッと過ごす」のに適した環境づくりについては、まだまだ検証が必要である。
- ・ 「地域のコミュニティ拠点との連携によるウォーカブルなまちづくりの推進」という狙いについては、watageを中心として周辺の地域の方々とさらなる連携について検討するとよいと感じた。
- ・ 学生と共に検討を進めたことで、柔軟な発想を取り入れた企画が実現し、地域の方々にも若い世代との交流を通じて、良い刺激を受けていただく機会となった。本プロジェクトを機に継続的に連携していきたい。
- ・ 当地域は、冒頭に表記した通りまちづくりガイドラインに基づき各種まちづくり活動を展開しており、歩行者ネットワークの整備と併行しながら、鍛冶町二丁目において、ウォーカブルなまちづくりを推進していけるとよい。今後も活動を継続し、通りごとの整備方針について実験を重ねながら検討していきたい